

放課後まなび教室ニュース

地域の方々の協力により全校（158校）で実施している放課後まなび教室。本市では、スタッフの方々のニーズをもとに研修会を毎年開催しています。今号は、6月24日に下京区の総合教育センターで開催したスタッフ研修会（参加者114名）の様子をお届けします。

放課後まなび教室スタッフ研修会を開催しました！



講師：赤津 玲子氏

（龍谷大学文学部臨床心理学科 准教授）



今回のテーマは「子どもたちへの関わり方」。

赤津先生の講演では、

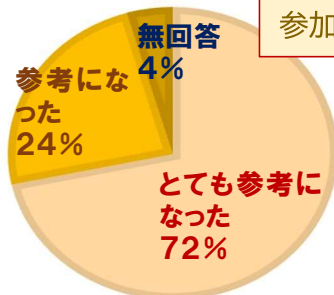
- ・自分の“強み”を子どもたちへの関わりに活かす。
- ・子どもが発するSOSには気づいても、素早く対応するのではなく、少し鈍感なフリをして自分から話せるように促す。
- ・褒め方のコツは、プレッシャーにならない様、普段出来ていること（又は、増やしたい行動）を褒める。など、放課後まなび教室にも、子育てにも活用できる子どもたちへの関わり方を伺うことができました。

また、質疑応答では、スタッフの方の悩みや意見に赤津先生が回答。リアルな体験談に思わずうなずく参加者も見られました。



参加者の声

- ・コミュニケーションは本当に大事であり、大人の社会でも関わっていくことが大切な事です。私自身の勉強になりました。これからの活動に活かしたいと思います。
- ・今日のお話を聞いてまなびの子供たちとの関わりだけでなく、自分の子供とのことも考えて変えていこうと思いました。
- ・先生のお話だけでなく、他校のまなび教室をされている方の悩みや関わり方を聞くことが出来て良かったです。
- ・コロナで人との距離にナーバスな環境の中、ワークを取り入れ、インタビュー形式で参加者の意見を聞き、発表できる機会を与えていただいて、充実した講義でした。



発行 京都市子ども若者はぐくみ局 子ども若者未来部 育成推進課 放課後まなび教室担当
〒604-8171 中京区烏丸御池下る虎屋町 566-1 井門明治安田生命ビル2F
電話：075-748-0016 FAX：075-254-5020

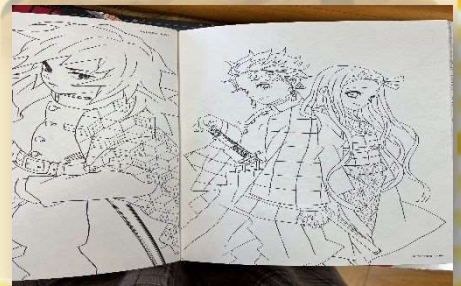


コロナ禍におきましても、放課後の子どもの居場所づくりの充実にご尽力いただきありがとうございます。今号では、1、放課後まなび教室の一日の流れ 2、コロナ禍での取組や気を付けていること 3、教室での子どもたちの様子 4、スタッフとしてやりがいを感じていること の4点に重点を置いて各教室の様子をお伝えします。

梅小路小学校(下京区)

梅小路小学校まなび教室の一日は、スタッフの方々の机と椅子の消毒から始まります。14:45 から低学年のまなび教室が始まり、15:45 からは高学年と交代することになっています。感染防止のために、入室前は必ず手洗いをします。また、低学年はクラス別、高学年は人数が少ないので学年別に図書室と多目的室に分かれて入室します。更に、多目的室は向かい合わせにならないように一方向に向けて座るようになっていきます。「こんにちは！」元気よく挨拶して入室した低学年の子どもたちは楽しくお喋りをしながら宿題に取り組んでいました。高学年の子どもは比較的静かに宿題をしていました。子どもたちにまなび教室は楽しいか聞いてみると、みんな「楽しい」と答えてくれました。特に塗り絵が楽しいそうです。梅小路小学校の塗り絵は『鬼滅の刃』などはやりのアニメが子どもたちに人気があります。

スタッフの方にまなび教室のやりがいを聞いてみると、「コロナ禍で開講できなかった時に『いつになったらまなび始まるの?』など子どもたちの始まるのをこころ待ちにする声が聞けたことがうれしかった」と答えてくれました。



竹の里小学校(西京区)

竹の里小学校では、子どもたちはまなび教室に入る時に出席シールを各自で貼って、持参したクリアファイルに出席の確認シールを貼ってもらいます。このシールがたまると、ご褒美にプクプクシールが2枚貰えるそうです。

コロナ対策としては、アルコール消毒や、定期的な換気を実施しています。子どもたちは、教室に入るとみんな静かに宿題を始めます。宿題が終わった子から、帰りの確認をしてもらいます。その後は、帰る子もいれば静かに読書したり、わいわい楽しくおもちゃで遊んだりする子もいます。

アドバイザーの方のお話では、「出席のシールは児童に自分で貼ってもらうようにしていて、貼っている様子を見て、その日の状態を確認するように気にかけています。手のかかる子ばかりに目が行きがちですが、おとなしい子が放っておかれないように気を付けて見ています。」とのこと。他にも、スタッフ同士の連絡ノートがあり、情報交換ができるようになっています。

スタッフの方々の気遣いや丁寧な対応で、子どもたちにも笑顔があふれるまなび教室です。



高倉小学校(中京区)

高倉小学校の放課後まなび教室は週3回、曜日ごとに学年を分けて行っています。スタッフの方々はコロナ対策として、子どもたちが来る前に徹底して椅子、机などの消毒を行い、密にならないよう座る場所に印を付けて配置を考慮しています。

子どもたちは、終わりの会終了後に順次図書館にやってきます。まず、参加カードに記入して宿題に取り掛かります。分からないところはスタッフに聞きに行ったりしていました。子どもたちは、みんな落ち着いた雰囲気の中で仲良く静かに集中して勉強していました。

コロナ前には、高学年は宿題が終わった後にオセロや将棋をしていましたが、今はなかなか出来ません。また、「チャレンジクッキング」という企画もあり、二学期末に蒸しパンやプリンを家庭科室で作っていたこともありました。

スタッフの方に話を伺うと、「子どもたち一人一人に個性があるので、色々な子どもと接することでとても勉強になり、子どもたちから学ぶことも多い。放課後まなび教室を、子どもたちの学習する場所としてだけでなく、居場所としても活用してもらえたら良いと思っている。」と答えてくれました。

